

樹木の管理



東洋産業だより



Vol. 162
2017年7月号

7月に入り、日差しや暑さも厳しくなってきました。セミの声も聞こえ始め、いよいよ夏本番がやってきます。

弊社へのご相談の中にも、「木に大量の毛虫がついている」というような内容が増えてきました。樹木の害虫は「樹液を吸うもの」「幹などに穴を開けるもの」「葉などを食べるもの」の3つに大別され、このうち葉などを食べる主な害虫としては毛虫類が挙げられます。特に今は春に孵化したイモムシ・毛虫が成長して人目につくような大きさになったり、葉の摂食量が増えて被害が目立つようになったりする時期です。これらの虫は集団で生活するものも多く、見た目に不快感を与えるだけでなく、樹木を丸裸にしてしまうほど激しく食害してしまうものや、刺毛に触れると痛み・痒みが生じるようなものもいるため、被害が出てしまう前に対処することが重要です。



イラガ (Monema flavescens) と食害痕

2つが挙げられます。樹木の害虫は、種によって好んで食べる木が異なっており、植樹する際には、被害を受けやすい樹種を避けて虫がつきにくいと言われるものを選ぶことで、虫の発生を抑えることができます。カイヅカイブキなどの針葉樹高木やヒバ、ジンチヨウゲ、ヒノキ、カシ、シイ、クスノキなどは比較的虫がつきにくいと言われていますが、虫に強くても秋に大量の果実(どんぐりなど)をつけるものは、そこから虫が発生したり、腐敗して悪臭を放つたりする場合もあり、注意が必要です。逆に、サクラ、ツツジ、サツキ、クチナシなどはそれぞれにつき大害虫が知られており、虫には弱いと言われるため、新しく植える場合には避けた方が良いでしょう。



被害を受けた笹

タケノホソクロバ (Artona martini)

また、ユスリカやクロバネキノコバエといった水域や緑地土壌から発生する昆虫類は、樹木に潜伏したのちに建屋などへ飛来するという性質を持つことが知られています。昆虫類が潜伏しにくい環境にするため、飛翔性昆虫に対しては適切な剪定を行って葉の密度を減らすこと、徘徊性昆虫に対しては落葉や地表付近に茂る葉を減らすことが、それぞれ有効な対策として挙げられます。整備されていない緑地では、雑草などが増えて植物相が複雑になることで、昆虫類が発生・潜伏しやすくなり、その種類も増加します。樹木に直接被害を与える害虫のみではなく、こうした潜伏昆虫類を寄せ付けけない対策も行いましょう。

すでに発生してしまった害虫の駆除以外にも、除草や剪定などの緑地管理、使用する薬剤や新しく植える樹種の選定など、緑地に関するお悩みはお気軽にご相談ください。

今月の豆知識：プール熱

今年は梅雨入り前から暑い日が続き、「今年の夏は『スーパー猛暑』になる」などという話を聞かれた方もいらっしゃると思います。暑くなってくると、海水浴など「水」に触れる機会も増えますが、夏に流行する「プール熱」という病気をご存知でしょうか。

プール熱は、医学的には「咽頭結膜熱」と呼ばれ、いわゆる「夏風邪」の一種とされています。その名の通り、主な症状は喉の痛みや目の充血、高熱などで、涙が多くなったり、まぶしくなったりする人もいます。厚生労働省の調査によると、患者のうち5歳以下の子どもが6割を超えるそうですが、飛沫感染・接触感染によって大人にもうつり、発症した場合はインフルエンザなどと同じように登校・出席が禁じられます。「プール熱」の別名の通り夏季はタオルの共用や涙などにより、プールでの集団感染事例が増えると考えられているため、予防法としてはタオルを共用しないこと、プールの利用前後にシャワーを浴びて清潔にすること、目をこすらないことなどが有効です。



夏風邪・夏バテ対策をしっかり行って、夏を思いきり楽しみましょう。



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-19-20
TEL 086-241-8080
FAX 086-241-8094
拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢

www.to-yo-s.co.jp
(バックナンバー掲載中)